

【カリキュラムポリシー】

経営情報学部

経営情報学部の教育課程は、融合教育領域科目、共通教育領域科目、専門教育領域科目、自由領域科目からなる。1、2年次から基礎専門領域の知識修得を重視したカリキュラムとし、3年次からは応用専門領域の知識修得とビジネスラボを拠点とするプロジェクトベースの実践科目に重点を置き、4年次では卒業研究と卒業認定講座により学生の学びの内容と水準を保証する。

1. 融合教育領域科目

経営学に立脚しながら、工学の意味を理解させる融合教育を行い、技術がわかり、その技術をビジネスにつなげるセンスを持ち、地域の発展に貢献しうるビジネスリーダーを育成する。

2. 共通教育領域科目

現在、我が国では、政治、経済、社会、文化、その他多方面にわたる構造的変化により予測困難な時代に直面している。このような時代に本領域科目を学ぶことにより、グローバル化や情報化に対応でき、自主的、総合的に事象を判断できる教養、倫理観、及び基礎学力を身に付けることを目的としている。また高校の教育課程との接続を意図した導入基礎科目を配置し、大学における教育課程への繋がりを円滑にする。

3. 専門教育領域科目

基礎専門科目により基礎を固めた後に、各分野に対応する専門科目の学習に進み、専門に関する知識と理解を深める。また環境関連専門科目を設けて、環境問題への対応に関する幅広い知識を修得する。経営学と情報システムの知識を幅広く学び、プロジェクトベースの教育により実践力（問題発見・解決能力）を養う。総括として、卒業研究と卒業認定講座により学生の学びの内容と水準の質を保証する。

経営情報学科

学部教育課程のポリシーを受け、学科の教育課程は、融合教育領域科目、共通教育領域科目、専門教育領域科目、自由領域科目から構成される。経営情報学科学生として修得すべき知識を教授する基本的な科目は1年次と2年次に必修科目として配当し、3年次以降は将来の進路実現に応じた科目を選択しつつ、海外ビジネス研修（短期・長期）科目とプロジェクトベースのマネジメント科目で実践力を身につける。また、3年次から各研究室のゼミに所属し、4年次の卒業研究に備える。

1. 融合教育領域科目

「フレッシュマンゼミ」や「工学と経営」、「総合講座」、「総合演習」を通して工学の意味や工学的センスを身につけると同時に、工学部の学生との協学を通して異分野にまたがる創造的思考力や問題解決力、合意形成力を養い、「考えて、つくって、売る」という総合的な実践力を育む。

2. 共通教育領域科目

- ① 政治、経済、社会、文化、その他多方面にわたる構造的変化により予測困難な時代において社会や企業のニーズにふさわしい教養と国際感覚を備えるために、倫理観及び基礎学力を身につける。
- ② グローバル社会において実用英語はコミュニケーションを図る共通言語として必須な状況となっている。そこで、初年次にビジネス英語能力レベル評価ならびに目標設定を行い、設定した目標に向けて4年間自己研鑽ができるようにする。

3. 専門教育領域科目

- ① 専門教育領域科目は基礎専門科目、専門科目、環境関連専門科目で構成する。
- ② 地域社会を担う企業等において活躍できる人材育成のベースとなる専門知識に関して、基礎専門科目および専門科目（経営分野と情報分野）の中から全学生必修の専門コア科目を設置する。その上で、専攻分野（コース）に沿って専門性をさらに高める学びが行える仕組みを構築する。
- ③ 実践力の育成に向けて、地域との連携により、地域での学びを教育の重点に据え、1年次から4年次に渡り系統だった教育体系を構築し、各年次において必修科目としての学びを実施する。具体的には、1年次の「地域産業入門」にて諏訪地域産業の特徴を学び、2年次の「フィールドワーク技法」にてプロジェクト管理と社会調査法の基礎を学ぶ。さらに、3年次には実践力の向上と卒業研究のテーマ設定を目的として、「ビジネス&マネジメント」、「海外ビジネス研修（短期）」、「海外ビジネス研修（長期）」を選択必修とする。
- ④ 地域の窓から世界を望む視点によりグローバルな感性をもった人材を育成するために、既に海外で活躍している多くの地域企業の支援を得て、海外ビジネス研修（短期・長期）を実施する。海外就業体験は海外で活躍する企業や企業人の生き様を直接肌で感じ、多様化する社会や異文化の中でのコミュニケーションやスキルを磨くことに役立つものと期待できる。
- ⑤ 学びの集大成としての卒業研究を必修科目とする。卒業研究を有効に行うための3年ゼミでは、文献調査やフィールド調査などの研究方法や論文としての作文技術、さらに自身の研究内容を他者に発信することができるプレゼンテーション能力をつける。卒業研究成果を公開発表することで質を保証する。
- ⑥ 卒業認定講座を4年次後期に設け、全学生必修の専門コア科目を中心にこれまでの学びを復習し、卒業に足る学力が身につけていることを保証する。
- ⑦ コンピュータ利用技術の習得のために、マイ PC を情報分野の教育のみならず、経営分野の教育や学園生活でも利用するようにしている。
- ⑧ 必修の演習科目は学生の理解度の把握と十分な演習効果を得るために少人数クラスとしている。
- ⑨ 多様な進路に応じるために、資格取得や進路に必要となる科目を設置している。